

地歴公民 (日本史B) 九州大学 文学部

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易 (易化・やや易化)・(変化なし)・やや難化・難化

昨年度に比べ、論述式設問の字数が減少した。

論述問題が複数出題されるので、時間内に仕上げるのに苦労するだろう。

出題の特徴や昨年との変更点

大問は4問構成で、時代別に出題されている。

記述式設問 34 問。論述式設問 7 問。系図を書く設問 1 問。

論述式設問の字数は、30 字以内から 135 字以内までで、総字数は 490 字となり、昨年と比べて減少した。

その他トピックス

系図を書く設問が昨年に引き続き出題された。

九大 OP〔1〕問8が、〔1〕問6にズバリ的中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	記述・論述 (25 点)	古代の大宰府	問5は、九大では過去にも出題された東アジア外交が扱われ、過去問演習の分量がポイントとなった。	標準
[2]	記述・論述 (25 点)	鎌倉時代の公武関係	問6は、九大でよく出題される史料の読み取り問題。問7は、昨年度も出題された史料の情報から系図を作成させる問題。	やや難
[3]	記述・論述 (25 点)	近世の出版統制	問2は、漢訳洋書輸入の禁の緩和に関する論述問題。問9は、上知令に関する論述問題。	標準
[4]	記述・論述 (25 点)	近現代の日口・日ソ関係	問10は、語群から選んだ5つの語句を使用した上で、論述を75字以内にまとめる問題。字数が足りなかったかもしれない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

記述式設問については、教科書レベルの日本史用語を正確に理解するとともに、正しい漢字表記ができるように常日頃から学習しておく必要がある。史料問題が出題されるので、すくなくとも教科書掲載の頻出史料については読んで理解しておきたい。論述問題が7題出題され、総字数は490字となっている。時間内に答案を作成するためには、日頃から論述対策にきちんと取り組んでおかなければならない。